

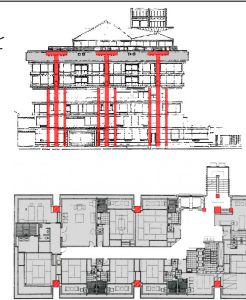
Cross section 1/100

01.対象 東光園ホテル

今回は菊竹清訓の設計した東光園ホテルを対象とします。東光園は菊竹清訓の作品の中でも特に代表とされる作品です。本計画では東光園を柱と床に着目して分析を行い、それらの要素を住宅に集中表現します。敷地は瀬戸内海と宮島が見渡せる阿品台を対象とします。

02.分析 柱と床

東光園の最大の特徴は6本の組柱である。ファサードから柱を見ると床面に遮られることなく上部の大梁まで届いている。そしてロビーには組柱が忽然と配置され強い場を与えようとしている。しかし客室空間からは柱を隠すように計画されている。ここではロビー空間のような強い場は必要とせず、人が落ち着ける生活空間を実現しようとしていたと考えられる。



03.Concept

東光園のように様々な場を住宅に与えるため住宅の機能を分散し床で空間を作ります。柱は床に遮られることなく建物上部まで貫き、敷地に強い場を与えます。柱と床の組み合わせによって様々な場を創造し、豊かな生活空間を提案します。

04.Diagram

